

長期留学プログラム 帰国報告書

<目次>

- | | | | |
|----|------|--------|------------------------------|
| 1. | 韓国 | 交換留学 | 啓明大学……………2 |
| 2. | 韓国 | 交換留学 | 韓南大学……………5 |
| 3. | アメリカ | 交換留学 | リンフィールド大学…8 |
| 4. | アメリカ | 語学派遣留学 | アーカンソー大学…12 |
| 5. | アメリカ | 語学派遣留学 | ハワイ大学 KCC…15 |

※内容は随時更新されます。

帰国報告書

学 部	経済学部	学 科	経済学科
留学先大学	韓国・啓明大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年2月～2022年6月(約4か月)		

1. はじめに

私は2月16日～6月23日の1学期に韓国の大邱(テグ)にある啓明大学に留学しました。出発日の16日は成田空港～仁川空港でした。成田空港での出国審査では①ワクチン接種証明書②72時間以内に受けたPCR結果証明書③VISAが必要でした。また仁川空港到着後には毎日朝9時と17時に熱を測りそれを入力するアプリを入れ、韓国の規定である10日間の隔離をするため隔離会社が用意したバスに乗り大田(テジョン)で隔離しました。隔離期間中は基本的に外出不可能で、隔離期間中に行われる計3回のPCR検査の時だけ外出が可能でした。隔離中は毎日10時・17時の2回食事が部屋のドアの前に置かれます。隔離終了後は隔離会社のバスで啓明大学まで送っていただきました。

2. 学校生活

留学期間は寮で生活することになっており、寮に入寮するためには空港の入国審査同様にワクチン接種証明書、隔離終了直前の受けたPCRの検査結果、またその他にも結核検査結果が必要でした。寮は生活館と国際寮の二つがあり、生活館は費用が安いですが2人1部屋かつシャワールームとトイレが共用になります。私は国際寮の部屋で生活していました。部屋は2人部屋で、寮は基本的には同じ国同士の方でなるのですが私は日本人がほかにいなかったため違う国の方と一緒に部屋で生活していました。また国際寮では、1階にジムや勉強スペースも併設されており快適に生活することができました。寮では朝・夜の食事をつけることができますが私は付けずに校内にある学食で食べるが多かったです。また、学校の周りには飲食店が多いので食事に困ることはなかったです。啓明大学にはバディ制度があり、日本人には日本語が話せる啓明大学在学学生が私生活のサポートをしてくれるのでわからないことがあったら聞くことができるので積極的にコミュニケーションをとっていました。私のバディは同い年だったこともありすぐ意気投合できました。

3. 日常生活

韓国ではキャッシュレス化が進んでいるため、学校側で留学生に対して銀行口座の開設も手伝ってくれました。学校の東門のすぐ近くに大邱銀行があり、そこで口座を作ることができました。韓国では銀行口座開設するために外国人は外国人登録証がないと開設の手続きが複雑になってしまうため大学側の案内で作ることをお勧めします。大学の案内に沿って開設手続きをすることによって外国人登録証がなくても口座を作ることができました。銀行口座開設のほかにも外国人登録証をすることも韓国では必須で、外国人登録証が身分証明書の代わりになります。外国人登録証はアプリを利用するための登録やワクチン接種、PCR検査など様々な事をするために必要になります。これも大学側で手続きの案内があるので大学にお願いしました。外国人登録証の発行には申し込みから完成までに1か月ほど時間がかかりました。韓国では日本で使っている携帯のネットワークは利用できないため韓国で利用できるようにSIMカードを変えたり、韓国の携帯会社で新しく契約する必要がありますが留学前でも韓国で利用できるSIMカードを契約できる会社があり私は事前にその会社に申請してSIMカードを入手していました。韓国に着いてから携帯会社で契約しようと思っても契約には外国人登録証が必要で、携帯会社にいってもすぐには契約することができず、私生活に支障が出るので留学前の韓国に着く前に契約しておくことをお勧めします。

啓明大学の周りには飲食店やカフェ、隣の駅には E-MART という大きなスーパーもあり私生活に必要なものはすべてそろえることができました。また啓明大学がある江倉駅(カンチャン)、啓明大駅(ケミョンデ)の最寄り駅2つから地下鉄で約 20 分の場所には大邱の繁華街である東城路(トンソンロ)もあり衣類をそろえたり、友達と遊ぶ場所も多いので啓明大学はいい立地にあるといえます。

4. 授業について

学校では語学堂と呼ばれる、韓国語を母語としない外国人たちが通う韓国語学校に通い、韓国語を学習しました。そこでは、TOPIK 1 級から 6 級までのレベル別にクラス分けがされておりテストに合格すると、進級していくというシステムでした。語学堂は月曜日～金曜日の平日に授業があり毎日 4 時間授業を受けました。語学堂では級によって授業時間が変わっており、1, 2 級の人は午後 13 時 20 分から 17 時 20 分が授業時間で、3～6 級の人は午前 9 時 20 分から 13 時 20 分で授業が行われていました。また、1 度自分の級が決まってしまうと変更することができないので、最初に行われるプレースメントテストで自分の実力を発揮することが重要になってきます。語学堂の授業中は基本的に母語の使用が禁止で、韓国語だけを使うことがルールでした。授業では韓国語の基本会話で使用する文法や韓国の伝統や歴史なども学ぶことができました。また、いろいろな国の人たちと一緒に受けるので授業中や休み時間などにいろいろな国の話を聞くことができることも良い経験になりました。語学堂にもテストがあり、中間テスト、期末テストのテストがある他、普段の授業の出席率や毎授業ごとに行われる小テストの結果の 4 つで評価されます。出席は 8 割以上の出席が必要でそれ以下の出席率の場合その時点で自分が授業を受けている級に合格することができません。テストでは授業で使用するテキスト全 20 課の内 1 課～10 課が中間テストで出題され、期末テストでは 1 課～20 課の全範囲から出題されました。合格にはテストの結果が大半を占めますが小テストや出席率など日々の積み重ねも重要になってくるので毎日出席し、毎日復習と予習をすることを心がけました。その結果、良い成績をもらうことができました。また、啓明大学では語学堂ではなく、韓国語の能力に関係なく一般の授業も履修することができます。一般の授業にも韓国語文法の授業があったり、留学生は学部に関係なくすべての授業を履修することができ体育、経済、経営、第二言語など様々な授業を受けることができ、語学堂を選ばなくても韓国語を勉強できたり、自分の興味のある授業も履修することができるので自分は語学堂で勉強することを選びましたが一般の授業を履修することを選ぶのもいいと思いました。また、語学堂で授業を受ける場合、一般の授業は履修することができないためどうしても日本に帰国後の単位認定数が少なくなってしまうので自分の現在の単位数と相談しながら語学堂か一般の授業を履修するのか決めてほしいと思います。

5. イベント

春学期にはイベントも多くありました。4 月には語学堂ではクラスごとに近くの遊園地に行ったり、啓明大学は桜でも有名なのでクラスのみならず桜鑑賞をしたりしました。5 月には文化祭があり、文化祭は計 3 日間行われました。1 日目は散歩大会、워터밤(ウォーターボム)、EDM 파티(EDM パーティ)がありました。2 日目はダンス部によるダンス披露、歌手の 10 cmとアイドルの(G)I-DLE が来ました。3 日目はアイドルの IVE と PSY が来ました。学園祭の中では 3 日目が一番人が集まっていた人数制限がされるほどで、規模が大きくて楽しむことができました。

5 月はほかにも留学生に向けた体験学習があり、慶州(キョンジュ)という場所にも行きました。慶州は昔の韓国で 1000 年続いた首都だった場所で世界遺産都市にも制定されている場所であり歴史的建造物がたくさんありました。雰囲気としては京都のような場所でガイドが昔の話を交えながら案内してくれるので韓国の歴史に触れることができいい経験ができました。

6. 終わりに

啓明大学での1学期という短い期間の交換留学でしたが非常に楽しく、文化の違いも肌で感じ、有意義なものになったと心から思います。私はこの留学では韓国語を上達させること、韓国での生活を通じて韓国の文化を知ること、韓国の歴史を辿り日本と韓国の関係についてより深く知ることが目標・目的として出国しました。この留学を終えて自分の留學生活を振り返ると、韓国語の勉強を楽しみながら毎日継続してすることができただけでなく、母国語以外の言語を使って意思疎通を図ることができるようになるまで上達することができたこと、留学の目標であった日本と韓国の関係についてもより深く知ることができたので良い留学になりました。この留學生活は、様々な方の助けがあってこのような充実した生活を送ることが出来たと思います。この留學で学んだこと、経験をこれから生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



【大学構内の桜】



【慶州・世界文化遺産の仏国寺】

帰国報告書

学 部	人間共生学部	学 科	コミュニケーション学科
留学先大学	韓国・韓南大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年2月～2022年12月(約10か月)		

1. はじめに

私は2月14日～12月17日までの10か月間、韓国の大田(テジョン)にある韓南大学に交換留学を行いました。成田空港から仁川空港に入国した際は新型コロナウイルスが大きく影響していて、特に入国の際は検疫がかなり複雑でした。SIMの解除と開通、新型コロナウイルスの陰性証明の登録などに時間がかかり空港では大変な思いをしました。入国審査が終わってからは一週間の隔離がありました。大学側が提携している隔離会社にお願ひし、空港からタクシーのようなもので大田にあるアパートの一室まで送ってもらい、一週間毎日届けられるご飯を食べて過ごしました。韓国の冬はととても寒く、気温は継続して氷点下を記録していましたが床暖房がつかなくなってしまう、過酷な隔離を終えた後は大学の寮に送っていただきました。

2. 寮生活

韓南大学には複数の寮がありましたが、私たちは規定されていた国際寮であるシビリーハウス2という寮に住むこととなりました。日本人の学生以外にもベトナム人や中国人、モロッコや英語圏からきた学生もいました。国際寮は玄関をでてすぐに大学の敷地内に入る門があり、国際センターや語学堂の授業を行う建物までは徒歩5分ほどの立地でした。大学の周辺は多くの飲食店や居酒屋、カフェなどがあり、不便なく生活することができます。部屋は三人で一つの部屋を利用しました。日本人の学生が多いため、私は常に日本人の学生と部屋を利用しました。また10か月の間で1学期と2学期の間の夏休み二か月ほどの間は、大学内にある寮に引っ越しをして住みました。普段の学期中には韓国人の学生が住んでいる寮で、部屋は4人用でしたが私たちは3人ずつで利用させていただきました。夏休みが終わるとまた国際寮に引っ越しを行いました。寮の中には共用旧家室に電子レンジとウォーターサーバーがあり、コンロは使うことができません。また各部屋に電気ポットなどの家電製品を置くことは禁止されていました。門限があり、夜11時を過ぎる場合や外泊をする際は外泊申請が必要でした。また夜12時から朝5時までは寮の門が閉まっているため出入りすることはできません。寮の中には自動販売機などもないため、夜食を食べたいときは必ず事前にお買ひしておく必要がありました。また洗濯機と乾燥機がありますが一回1000ウォンずつかかり、特に土日は利用者が多く3時間ほど待つこともありました。

3. 日常生活

生活に必要な外国人登録書、銀行口座の開設などはバディに手伝ってもらいながら学校を通して申請しました。韓国は基本的に外国人登録書に登録されている個人番号と電話番号があれば多くのことがスマートフォン一つで解決するようになっていきます。銀行の窓口に行って申請を行えば銀行口座をアプリケーションで管理することができるようになり、友達やお店への送金なども楽に行えます。また出前や通販などの買ひ物も簡単に行え、生活がかなり便利になります。またほとんどのお店でクレジットカードが使えます。現金はほとんど持ち歩く必要がなく、交通マネーにチャージをする際以外はほとんどすべての手持ちの現金を銀行に預けて生活していました。また大学付近にはバス停があり、三種類のバスがそれぞれ10分程度の間隔で運行しています。ソウルなどに行く際に利用する大田駅までは最寄りのバス停から15分ほどで、他にも洋服屋さんが多くあるウネンドンやトウンサンドンといった地域にもバスで簡単に出ることができます。バスも日本に比べるととても安く、タクシーもあまり料金が不高くないため荷物が多い時や急いでいるときはタクシーを利用しました。またバス

で 10 分、歩いて 20 分ほどのところにバスターミナルがあり、高速バスで少し安く郊外にも行くことができました。またバスターミナル付近に大きなダイソーと e マートという大きなマートがあり、日用品を購入することができました。また首都であるソウルまでは 2 時間ほどで、月に一度ほどリフレッシュをいかに遊びに行きました。友人と一緒にコンサートに行ったり、景福宮という観光名所にも行きました。また第二の都市であるプサンで海を見たり、水原という地域にある水原華城という世界遺産を見物しに行きました。学習は主に部屋や近くのカフェで行いましたが、大学内にある図書館や近くにあるスタディカフェを利用することもありました。

4. 授業

大学のプログラムで規定されていたのは春学期、秋学期の語学堂の授業でしたが、私は自費で 6 万円ほど払いその間にある夏学期の語学堂の授業も受講しました。語学堂は月曜日から金曜日の 9 時から 13 時までの授業が 10 週間、計 200 時間の授業で構成されています。入国して 2 週間ほどで行われたレベル分けテストは Zoom を利用した 15 分ほどの面談でした。1、準2、2、準3、3、準4、4、準5、5級があり、私は最初に準4級に割り当てられました。規定をクリアすれば次の学期に進級することができるもので、春夏秋と受け準5級のクラスを終了して帰国しました。級によって授業の内容は異なりますが、私が受けていたのは文法や単語を学びリスニングとスピーキングを重点的に行う授業、長文読解と作文を書く授業、TOPIK(韓国語能力試験)の対策授業の三種類に分かれていて、三人の先生が時間割に沿って授業を行ってくださいました。語学堂の先生たちは英語や日本語、中国語など韓国語以外の言語も話すことができる先生が多いですが、基本的に韓国語以外の使用は禁止でした。先生方の中には TOPIK の採点の資格を持っている先生もいて、個人的に問題集の筆記問題を解いて持っていくと採点をしていただけ、わからないところはわかるまで丁寧に教えてくださいました。作文は自分でミスを見つけることや点数をつけることが難しいため、とても助けられました。クラスはベトナム人が大半で、それ以外にはモンゴル、ウズベキスタン、中国、オーストラリアなどの留学生がいました。韓国語または英語で開講されている一般の学部の授業もとることができますが、私は韓国語の学習に力を入れたかったため春学期は受講しませんでした。秋学期には日本人留学生向けに開講された講座があり、語学堂の授業に加え二つの科目を履修しました。日本語を話すことができる韓国人の先生による授業で、できるだけ韓国語で話すというルールでした。韓国語の理解という授業では主に韓国語の文章を読み、それを日本語に訳す練習を行いました。内容をただ理解するだけでなくきちんと解釈をして自然な日本語に直す必要があり、語学堂の授業では行わない和訳という練習を通し韓国語の理解を深めました。韓国社会の理解という授業では大学のある大田や首都であるソウル、釜山などの地域についての学習や韓国の世界遺産に関しても学習を行いました。校外学習にも行き、大田にある建物にいき展示やガイドさんの話を聞きました。特に日本では学ぶことのできない韓国からみた北朝鮮の印象や日本に対する印象などを学ぶことができました。語学堂と並行して受講したため一日に授業が 7 時間ある日もありました。特に秋学期の語学堂は課題も多く、TOPIK の受験もあったため授業以外の学習はほとんどできませんでした。

5. TOPIK 受験

私は 10 月と 11 月に実施された TOPIK(韓国語能力試験)を受験しました。夏頃までは帰国してから受験しようと考えていましたが、日本では年に 2 回ほどしか開催されないため友人と一緒に申し込みを行い受験を決意しました。語学堂の授業が TOPIK の対策に焦点を当てたものであったため、授業にきちんと取り組んでいけば自然と点数は伸びるようなカリキュラムになっていると思います。私は語学堂のカリキュラムでの最高クラスである 5 級のクラスが受けられずに帰国することが決まっていたため、5 級の学生たちが TOPIK 対策の授業で利用する問題集を購入し、先生にお願いして理解できない部分の解説や記述問題の部分の採点をお願いし、個人的に勉強を進めました。単語は単語帳とアプリケーションを利用して学習し、問題演習を繰り返しました。先生に勧められた速読の練習や音読練習、リスニング問題の本文のシャドーイングなどを通して練習を続けたことで、いい成績を修めることができました。

6. おわりに

留学以前に決めていた目標は韓国語力の向上と、韓国の歴史と文化について韓国側の立場からも学ぶということでした。語学力に関しては、特にリスニング力とスピーキング力が大きく成長したと感じます。勉強にきちんと集中できる環境であったため、TOPIK の級も取ることができきちんと成果をだすことができました。歴史と文化については、特に秋学期に履修した韓国社会の理解が大きな助けになりました。先生にお願いしたところ、大学の歴史学科から韓国の高校の韓国史の教科書をいただくことができました。言語能力を身につけ、さらに多文化理解を深められたとても良い経験となりました。この経験を生かしていけるよう善処したいです。

帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	英語文化学科
留学先大学	リンフィールド大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

1. はじめに

まず、私が留学をしたいと思ったきっかけは、私の将来の夢が英語教師なので、アメリカで英語の正しい発音を学んだり、現地の学生とコミュニケーションを積極的にとったりして、自分の英語力を向上させたいと思ったからです。また、幅広い様々な知識を取り入れ、異なる国籍の学生たちと交流し、多角的に物事を捉える力を身につけたいと感じたからです。リンフィールド大学を志望したのは、この大学ではアメリカを含む様々な国籍の学生と交流できることを知ったので、異なる国籍、様々な価値観を持った同年代の学生たちと交流して自分の視野を広げ、自分の価値観や考え方を見つめ直したいと考えたからです。

リンフィールド大学には、8月24日から12月16日の秋学期に留学しました。本大学はアメリカのオレゴン州マクミンビルにあります。周りは自然に囲まれ、比較的過ごしやすい地域でした。最寄りの空港であるポートランド空港から大学までは1時間半ほどかかるため、到着した初日は、リンフィールド大学が手配したバスに乗って大学まで向かいました。

2. 学校・日常生活

私達はキャンパス内にある寮で生活をしました。基本的に2人部屋で、ルームメイトがいました。ルームメイトは現地の学生で、新入生でしたが、日常生活だったり、英語の課題で分からない部分を教えてもらったりと様々な場面で助けてくれました。日用品に関しても必要なものは近くのスーパーで買いました。食事は、毎日 Dillin Hall と呼ばれる学生食堂でとりました。大学では Meal プランというものに加入するため、学生証があれば学食を食べることができます。こちらの学食ではビュッフェ形式で、好きな料理を好きな分だけ取りに行きます。肉や野菜、フルーツが揃っており、健康的な食生活を送ることができました。また、授業で出される課題はキャンパス内にある図書館で行うことが多かったです。図書館は寮群からは少し離れていますが、勉強する学生が多くいました。また、図書館には Study Room という小部屋が複数あり、窓口で鍵をもらえば使用することが可能です。さらに、キャンパス内にはトレーニングジムがあります。ジムは学生であれば無料で使え、基本的に毎日開いているため、とても便利でした。また、スターバックスもキャンパス内にあります。Meal プランの限度額までは、学生証を提示すれば好きなだけ飲み放題なので利用すると良いと思います。

リンフィールド大学周辺はお店が少なく、様々なお店が並ぶ通りまでは徒歩だとかなりの距離があります。そのため、少し遠くへ出かけるときは、Uber を使いました。ルームメイトが車を持っている場合はルームメイトに頼んで行きたい場所まで連れて行ってもらうこともできます。

学校生活を通して、本大学ではスペイン語話者が多いと感じました。私は関東学院大学で、第2外国語はスペイン語を選択し、学んでいました。今までスペイン語は授業の中でしか使うことがありませんでしたが、アメリカで自分の習ったスペイン語を使う機会があって、とても良い経験となりました。この経験は、スペイン語を勉強するモチベーションにもなったので、英語だけでなく、スペイン語力も向上させ、トリリンガルを目指したいと思います。

3. 授業

授業は、留学生向けの授業を受講しました。「Listening & Speaking」、「Writing」、「American Culture」、「Community Service」の4つを共通して受けました。また、「HHPA」と呼ばれる、いわゆる文化・体育系の授業

を1つ取らなければなりません。HHPA の授業には、ウェイトトレーニング、ヨガ、歌、ギターなど様々で、私はウェイトトレーニングのクラスを取りました。Listening & Speaking と Writing は、英語のレベル別に2つクラスがあり、クラスによって講師や教科書、授業日程も異なります。

Listening & Speaking の授業では、主に教科書を使って授業が行われました。毎回課題として教科書の問題を解き、授業のグループワークのなかで解答の確認していました。教科書の問題では短い学術的な講義の朗読やビデオが含まれ、それを視聴してノートテイキングするということが多かったです。この繰り返しにより、リスニング能力が向上しました。また、発音の練習も授業内で行いました。似ている発音や日本人が苦戦する発音などをプリントを使って練習しました。今学期では、発音のクイズが2回あり、自分の発音を録音して提出しました。さらにプレゼンテーションは4回ありました。プレゼンごとにテーマは異なり、毎回6分から8分でまとめる必要がありました。

Writing の授業では、教科書を使ってパラグラフやエッセイの書き方を学びました。パラグラフ、エッセイそれぞれの構成要素や様々な文法構造など、自分のライティングスキルを向上させるために大切なことを多く学ぶことができました。課題としては、学期前半はパラグラフ、学期後半はエッセイを提出していました。まず、First draft という自分の最初のライティングを作り、課題として提出します。その後、講師からのフィードバックがもらえるので、それを踏まえて自分のライティングを修正し、Final draft として提出します。また、授業では、MLA スタイルという引用文献の書き方を学びました。アメリカではよく使われるスタイルだそうで、私はアメリカに来て初めて使ったため、書き方に苦戦しました。

American Culture の授業では、アメリカの文化について理解を深めました。主に教科書を使って授業が進みました。また、講師による授業だけではないのがこのクラスの魅力です。アメリカの文化を自分の目で確かめ、体験するために、大学を出て校外学習を行います。例えば、ダウンタウンの Farmers market や小学校などを訪れ、文化の違いを調べたり、体験したりします。この体験したことをエッセイにまとめ、課題として提出していました。Writing の授業と同様に First draft と Final draft があるのですが、First draft は、授業内のペアワークで読み合いをし、お互いにチェックをします。提出はしないので、講師からのフィードバックはありません。ペアワークでチェックされた自分のエッセイは修正し、Final draft として提出します。また、この授業では、教科書のチャプターごとに単語テストがありました。単語の定義とその単語を使った文章を暗記してテストに備える必要があります。

提出物は全て、リンフィールド大学の「Blackboard」というサイト内で提出します。提出物は毎度担当講師によって採点されます。その成績は、Blackboard で見る事が可能です。また、スマホにも Blackboard のアプリがあり、私はいつもそこで成績を確認していました。また、この Blackboard アプリは通知機能があり、採点や提出物の期限の通知がくるので便利です。授業においては、日本の大学と同じようにアメリカでも「シラバス」がとても重要です。アメリカでもシラバスに則って授業を進めていきます。

4. ボランティア(Community Service)

Community Service の授業では、キャンパス周辺にある施設を訪れ、そこで毎週ボランティア活動をしました。ボランティアをする施設は、最初に自分の興味のある施設の希望を提出し、それによって割り振られました。原則毎週施設を訪れ、24 時間はボランティアをする必要がありました。私は小学校で体育教師のサポートをするボランティアをしました。アメリカと日本の小学校教育の違いを自分の目で確かめることができ、とても貴重な経験となりました。例えば、体育の授業において、アメリカでは子どもたちが私服、そして普通の運動靴で授業を受けていました。一方、日本では体操服と体育館シューズの着用が求められます。このような違いがあるため、アメリカの教育は日本より比較的自由だと感じました。また、アメリカには「タイムアウト」というシステムがあり、ルールを守らず先生から注意された生徒は、体育館の壁に1回タッチしに行き、戻ります。これを先生と生徒の間で「タイムアウト」と呼んでいます。このタイムアウトについて調べてみると、アメリカでは子どものしつけの方法として広く浸透していることがわかりました。一方、日本の体育の授業にはタイムアウトの制度

はないので、とても驚きました。タイムアウトは、子どもたちの心を落ち着かせるとともに、適切な行動を教えるためのものです。また、子どもたちに安全に運動してほしいという価値観から、タイムアウトは存在するのだと感じました。さらに、タイムアウトの制度を知って、ただ叱ることが必ずしも教育にとって良いことではないことを実感しました。日本では、教育の場で子どもがルールを守らないと、先生や親がすぐに叱ってしまうことが多いので、アメリカのようにタイムアウト制度を導入するべきだと考えます。

5. 勉強面でのサポート

・Conversation Partner

Listening & Speaking の授業の一環として毎週 Conversation Partner とのコミュニケーションがありました。私達は毎回会話のテーマを決め、そのテーマに沿って Conversation Partner に質問したり、私達が質問に答えたりしました。Conversation Partner はリンフィールドの学生で、彼らは日本語の授業を取っています。そのため、私達は日本語を彼らに教えたり、日本語で会話したりもしました。また、Conversation Partner と話したことについて Listening & Speaking の課題として Word で提出する必要があったので、自分のノートに聞いたことをメモしていました。これにより、自分のリスニング能力、そしてノートテイキングスキルを向上させることができました。さらには、スピーキング能力も向上でき、5W1H などを使った質問を頭の中で作るのも速くなりました。私の Conversation Partner はメキシコ出身であったため、メキシコの文化やスペイン語を学ぶことができ、とても良い機会となりました。

・WA Journal

Writing の授業の一環として毎週 Writing Assistant とのミーティングがありました。私達は課題のパラグラフやエッセイを提出する前に、Writing Assistant に見せに行き、添削してもらったり、アドバイスをもらったりしました。この WA Journal があったことによって、自分のエッセイの質が日々向上し、ライティングスキルも身につきました。また、Writing の授業で理解できなかった部分や教科書で分からなかった部分についても質問をすることがありましたが優しく教えてくれました。

6. アメリカ文化

・Homecoming

Homecoming は毎年秋学期に大学の卒業生を迎え、イベントや同窓会を行うアメリカの恒例行事です。リンフィールド大学では、今年は9月16日と17日の2日間にわたって行われ、多くのリンフィールド大学の卒業生が参加していました。私はこの Homecoming でアメフトの試合や水泳のタイム計測を見に行きました。特にアメフトの試合を見るのはこの Homecoming の時が初めてでとても印象に残っています。アメフトはアメリカの3大スポーツでもあり、歓声も凄く、スタジアムは熱気に包まれていました。観客は学生だけでなく、リンフィールドの卒業生や家族連れも多く、スタジアムは混雑していました。リンフィールド大学はアメフトで優勝経験が何度もあり、アメフト部は長い歴史を持っています。そのため、このイベントはその伝統を受け継ぎ、人気を維持するためのものなのだと思います。また、イベントを通じて、アメリカと日本の文化の違いを強く実感しました。日本との一番の違いは、アメリカ人は家族をととても大切にします。私が見に行ったアメフトでも水泳でも、競技が終わると真っ先に家族のもとに駆け寄り、ハグをする生徒が多かったです。日本の学生は、家族と接することを恥ずかしい傾向があります。そのため、家族とハグすることをためらうことが多いです。さらに、アメリカ人は友達と会話することよりも家族を優先していたことが印象的でした。

・Thanksgiving

Thanksgiving は毎年11月の第4木曜日に行われ、家族全員が家に集まり、様々な食べ物を食べます。Thanksgiving Day がある1週間は休校で、食堂や図書館を含む大学の施設が閉まります。ほとんどの学生は

実家に帰り、家族と一緒に Thanksgiving を過ごします。私は Thanksgiving では、Friendship family の自宅に招かれ、前日には料理のお手伝いをして、Thanksgiving Day 当日は、彼らとの Thanksgiving を楽しみました。初めて食べる七面鳥はとても美味しく、印象に残っています。また、アップルパイやパンプキンパイ、マッシュポテトなど、Thanksgiving で定番の料理も食べることができ、とても貴重な体験でした。

7. Friendship Family Program

リンフィールド大学では、Friendship Family 制度があり、留学生にはそれぞれフレンドシップファミリーがいました。フレンドシップファミリーは留学生の受け入れをしてくれ、ホームステイだったり、さまざまな場所へ連れて行ってくれたりします。またフレンドシップファミリーの多くは日本のことが大好きです。私のフレンドシップファミリーの元では、様々な体験ができました。ハロウィンには、カボチャを彫ってジャックオランタンを作ったり、Thanksgiving には、アップルパイやパンプキンパイを作って食事のお手伝いをしたりして、全て私にとっては初めてとなるとても貴重な体験をさせていただきました。私のフレンドシップファミリーは日本を何回か訪れたことがあり、息子さんも昔、日本に交換留学で滞在していたので日本に関するお話もできました。

8. 終わりに

4か月という短い期間でしたが、リンフィールド大学での経験は私にとって、とても有意義なものとなりました。アメリカの文化や価値観の違いを自分の目で確かめることができ、日本と似ている点や異なる点を感じることができました。一番強く思ったのは、アメリカ人はとても家族愛が強いことです。また、アフガニスタン、ドイツ、フランスなどの異なる国籍の学生とも交流することができ、それぞれの国の文化や価値観について知ることができました。このように、様々な国籍の人とコミュニケーションをとる機会は滅多にないので、とても貴重な経験だったと思います。さらには、この留学を通して多くの仲間ができました。異なる国籍の仲間とつながることができ、コミュニケーションの重要性を改めて感じました。また、生活のなかでは、英語の正しい発音だったり、アメリカでよく使う話し言葉だったり、現地でなければ学べないことを多く学ぶことができました。授業においても発言や話し合いの機会が多く、自分の英語力を試すことができる良い環境にあり、日々自分の成長を感じることができました。留学が終わって満足し、完全燃焼だという人も多いですが、一番大事なものは、留学から帰ってきた後だと思えます。留学がゴールなのではなく、この留学で学んだことや経験をどう生かすかが重要です。私は、今後 TOEFL や IELTS などの語学試験を受け、高得点を取りにいきたいと考えています。また、留学生のサポートなどの活動にも積極的に参加したいです。大学卒業後は、海外大学院の進学も視野に入れているので、リンフィールド大学で英語や異文化について深く学べたことはとても価値ある経験となりました。また、私は現在英語の教師を目指しています。今回の留学では、他の国からの留学生に比べ、日本人の英語力は低いということを強く実感したので、将来私は日本の英語教育を改善していきたいと考えています。近年グローバル化も進み、確かな英語コミュニケーション能力も求められるようになってきています。将来、子ども達のために英語の楽しさ、そしてその魅力を伝え、未来のある子どもたちの可能性を伸ばすことができるよう、今後も関東学院大学で勉学に励みたいと思います。



【Homecoming でのアメフトの試合】



【キャンパス内のクリスマスツリー】

帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	比較文化学科
留学先大学	アーカンソー大学	プログラム種別	語学派遣留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

I studied abroad at University of Arkansas, located in the southern part of the United States, from August 13th to December 18th, 2022. This is what I experienced in that time.

Since the reason I went abroad was to focus on studying English, I did not attend university lectures with Native American students; instead, for two terms, I attended an intensive English language school on campus for international students, Spring International Language Center (SILC). The school offered three classes, Reading and Vocabulary (RV), Grammar and Writing (GW), and Listening and Speaking (LS). The grammar section I learned and the essays I read in the RV and GW classes in the first term were geared to meet the required level for university entrance exams. In LS, I learned many basic things which are necessary in daily life. One of the areas of focus was on the pronunciation that needs to be strengthened in non-native speakers. Teaching style and the amount of homework varied, of course, depending on the teacher. Some classes offered a lot of opportunities to practice English with classmates by having the students participate in mini games, while others were more of a lecture style, with the emphasis on listening. Some instructors assigned quite a bit of homework, which took a lot of time to finish. When I first began at the school, I often couldn't understand what a teacher was saying, so I met with the instructors during their office hours. The instructors were very kind and spoke relatively slowly in the class, in order to be understood. In addition, they always asked students if they had some questions during the class. Every class had a lot of tests. Sometimes there were tests for all three subjects in one day. It was not easy to take that many tests, but that was the point; it was very effective in terms of frequently reviewing what I had learned and checking my understanding. When the first term finished on October 13th, I took the final exams. These tests were more difficult than usual. The reading test was especially hard, taking a long time to read because the sentence count was high. On the speaking test I couldn't get a satisfactory score; I had a problem with fluency. I was told my speaking was a little bit difficult to understand because I was pausing a lot due to the fact that I was trying so hard to get the grammar correct. Since this was my biggest problem throughout the term, I became determined to make more opportunities to speak English; I read various literary works so I'd be sure to increase my reading speed.

A new term started after five days' vacation. The level of classes changed, and new international students came. I was a little confused because the classes were clearly different from the previous level. For example, I was required to read long sentences in a short time in the reading class and to be able to know what they meant. But I couldn't always do that right away. Therefore, it was necessary to read important information quickly rather than read in detail. We were required to vary the vocabulary and various ways of expression when writing essays. Also, I had to listen and comprehend speech at regular speed. In the first term, I was able to get more than a 90% score, but I struggled to get a high score in the second term. A passing grade was a score higher than 70%; however, I didn't reach this score several times. It was especially difficult because we were expected to be able to summarize and rephrase; I know now that that is what helped me learn more in the second term than in the first, because it was harder. The final tests in the second term were the concluding tests of my studying abroad. I learned from my mistakes in the first term and tried not to make many pauses in the speaking test. As a result, I got my goal score. On the other hand, I couldn't

t achieve the satisfactory score in Reading and Grammar. I think the problem is the speed with which I read essays and answered the questions. But I feel that the most important thing is to read a lot and communicate with a lot of people. In other words, consistent practice is essential until I can speak fluently and naturally.

Taking advantage of the office hours with the instructors was very important. This was a valuable time that I could use to practice things like pronunciation and ask what I did not understand in the class one-on-one with my instructor. Many Japanese are not good at differentiating and pronouncing R and L, and I was not an exception. I signed up for the office hour and practiced pronunciation. It was really profitable time in which they gave me detailed instructions on the position and movement of my tongue. Also, I asked them to go over my mistakes on the test when I could not get the satisfactory score. It became clear where I stumbled and how I should have solved the questions, so I learned a lot through office hours.

A system called Language Partner was set as opportunity to communicate with Native American students. SILC staff matched international students with students from the University of Arkansas, and we met about an hour during lunch breaks or after school. Talking to native students was completely different from talking with SILC teachers and classmates. When I met her for the first time, she spoke so fast that I had my hands full with catching what she said, and it was far from a smooth conversation. I could not catch the question and ask over and over again. However, it was a valuable time to tell her Japanese culture, customs, and my opinion. If I felt I could not express my opinion, I tried to change the way. I believe it was a great help in improving my speaking ability.

I also learned a lot of things from my host family. I was worried about finding a host family due to the COVID19, but I'm glad I was able to do it. My host family taught me not only English but also American customs and culture. They are the great family, and I was lucky to stay such a nice family home. They have accepted many international students before, and I was the 70th. They have 13 siblings though I couldn't meet everyone. My host family is Catholic. They go to church every Sunday, and they pray before meals and before going to bed. Such religious practices that I had never experienced in Japan were impressive. Most of my host family's friends were also Catholic. The most impressive thing after living together for four months is that they value their family and friends very much. I was surprised because they often eat together and spent time with other families. Sometimes, other families invited us to their house and entertained us with homemade cooking. I felt strong relationships with people who believing in the same religion. Even at home, while we ate dinner, everyone talked about various things and shared their own events. They really valued the time with their family such as playing board games, watching movies after dinner. I watched some movies, but listening was truly difficult. When I watched a movie at home, I had the English subtitles, so I was able to grasp the outline of the story even though I couldn't hear it. However, since there were no subtitles in the movie theater, I couldn't understand the story well, so I checked the story line after the movie.

During my Thanksgiving vacation, I experienced a traditional American holiday. I went to my host family's friend's house in Oklahoma. The house was located in a very beautiful place facing the lake. My host family invited their friends to have a meal on Thanksgiving. I baked a big turkey as I expected for Thanksgiving. We all expressed our gratitude each other, and then we enjoyed playing card games and hide-and-seek. I had many opportunities to play card games and board games with my host family and friends, and I learned many slang and unique expressions for the first time through the games.

Midterm elections were held in the US while I studied abroad. My host mother took me to the voting place, and it was very different from the voting system in Japan. In Japan, it's common to use paper when people vote, but in the US, they used something like a large personal computer. She showed me how to vote, which surprised me. She said if people respect each other's opinions, it's fine to talk about who they voted to, and I agree with her!!

I went to Little Rock, the capital of Arkansas, in December. Arkansas is the hometown of former

president Bill Clinton, so I visited the Bill Clinton Museum. I was surprised that a baggage inspection was carried out before entering the museum. Including this incident, when I went to the US, I was reminded about how safe Japan is. It was very interesting to see the gifts which the president received from the prime ministers, presidents, or the royal family of other country. I found presents from Japanese emperor and prime minister at that time. There were also many exhibits that made an appeal to women for rights like suffrage, and it left a big impression on me. Thanks to my host family, my studying abroad lives were really enjoyable. I can't thank them enough. I was really sad when I said goodbye to my host family. They saw me off despite the early morning. My host family is going to visit Japan for a trip in April. I would like to continue studying to improve my English skills by the time we meet again.

Finally, when I reflect on my studying abroad, there are what I should have done before leaving Japan. I regret most that I should have listened to English. It doesn't matter if it's music, movies, YouTube, or anything like that. I'm sure that making a lot of opportunities to listen to English will help improve our listening skills because when I became able to listen, my speaking ability improved. After the third month, I felt that I hear well more than before. Once I could catch a talk, it was possible to use the words that other people often used in conversation. I regretted I wanted to improve my speaking more, so I wish I had listened to English regularly and trained my ears. Students coming from other countries were able to speak English better than I thought. I was very frustrated because I only ask yes/no and simple questions at first. The conversation became more enjoyable as I could talk a lot, so I want those who plan to study abroad to create opportunities to listen to English.

Grammar is as important as listening. The grammatical items I learned at SILC were basically a review of what I had learned in Japan, so I didn't feel it was difficult. As I continued to review in the class, I became able to use the grammar I learned in conversation. I think that we will be able to speak naturally by outputting in conversation after repeatedly inputting.

All in all, my studying abroad was a multi-faceted learning experience of not only language but also various cultures; they were an integral part of it. Although it was a short period of four months, I am truly glad that I went to study abroad. I would like many people to experience studying abroad. Arkansas, which is rich in nature, somewhat resembles my hometown, and I loved it. I successfully completed my studying abroad program thanks to the cooperation of many people, including my family, host family, SILC students and teachers, and staff at the International Center. I really appreciate for the irreplaceable experience and memories.

帰国報告書

学 部	社会学部	学 科	現代社会学科
留学先大学	ハワイ大学 カピオラニ・ コミュニティ・カレッジ	プログラム種別	語学派遣留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

1. はじめに

私は8月から12月までハワイ大学 KCC に留学しました。8月8日に成田発ホノルル着の便で行きました。ワクチン接種が二回まで住んでいれば陰性証明や隔離措置などはいらず、私は三回接種していたので、自治体で発行してもらった接種証明書(海外用)をあらかじめ発行してもらいスムーズに手続きができました。ホノルルに到着してからは、ホームステイ会社の方の車にピックアップしてもらい家まで連れて行ってもらいました。帰国の時には日本入国の条件がワクチン接種三回以上か 72 時間以内の陰性証明書が必要でした。事前にファストラックで検疫と税関を申請していたのでスムーズに通過できました。今のハワイではコロナによる制限は特になく、マスクをしなくても基本的にはどこでも行けます。

2. 大学について

私は IEP というプログラムだったのであらかじめ時間割が組まれており、月曜から木曜まで同じ ESOL50,ESOL52 を受け、金曜日は IS54 という授業でした。クラスメイト全員が英語を第二外国語としている人達だったので、授業自体もとても難しいものではありませんでした。このプログラムの目的は、大学の授業についていけるように英語のスキルを高めていくというものでしたが、内容としてはただ、文法を学んだり、エッセイを書くというものではなく、ハワイの自然や歴史などの題材を使いながらエッセイを書いてみたり、プレゼンテーションをするというものだったので、ハワイならではの授業だなと感じました。

私は今まであまり英語で長い文章を書いたことがなかったのではじめは苦戦しましたが、回数を重ねていくことにどんどん長い文章が書けるようになっていきました。宿題はあまり出ず、たまに単語テストなどがあるときに勉強してきて臨んでと言われたり、エッセイが書きおわらなかつたり、エッセイの書き直しがあるときくらいで基本的には少なく感じたため、普段は日本から持っていった参考書を解くなどしていました。授業でわからない点がある時にも役に立つので一冊は文法書を持っていくのがおすすめです。また、先生たちがおすすめの学習サイトなども教えてくれるのでそれも利用していました。

学校の授業で提出するエッセイなどは手書きが多かったです。しかし、授業内でアプリやサイトを使って単語勉強や動画を視聴することもあったので、毎回 iPad などを持って行っていました。

ミニテストなども何度かあり、点数が低いとやり直しなどがありましたがそこまで難しい問題ではないので、普段からちゃんと復習をしていれば問題ない内容だと思います。立地的にはハワイ大学 KCC はダイヤモンドヘッドの麓にあり、自然豊かな環境ですが学内にあまりお昼ご飯を買う場所がないのでそこだけが不便でした。ただ、ワイキキからもバスで 10 分程度の場所であったことはよかったです。

大学では毎週土曜日にファーマーズマーケットがひらかれており、新鮮なフルーツやローカルフードなども食べることができるのでお勧めです。他にも金曜日の放課後にイベントが開かれたり、土日にもボランティアを募集していたりするので、そういった活動に参加することで、友達をつくれたり英語を使う機会を見つけることができます。私はこういったボランティアなどは学校の掲示板を定期的にチェックして見つけていました。ほかにも学校からメールでイベント案内が送られてきたりもしました。また、KCC だけで探すのではなくUH(ハワイ大学)まで行って探してみるとたくさんのイベントが見つかります。

3. ホームステイについて

私のホームステイ先は大学からバスで15分程度のところで、日本人の夫婦の家庭でした。二人とも働いている家庭だったので平日は忙しそうでしたが、土日などは車で島のいろいろなところに連れて行ってくださったり、ハワイならではの様々な食べ物なども出してくれました。家の中では英語で会話するということはありませんでしたが、お店で使える英語だったり、島の案内などもたくさんしてくれたり、日本人の視点から気を付けたことがいいことなどをおしえてくれたり、困ったときにすぐに日本語で相談できたことがとてもよかったです。特に私は初めての海外であり、慣れないことばかりだったので、このように教えてくれて本当に助かりました。家では朝ごはんと夜ご飯は出してもらい、お昼ご飯は自分で用意しなければいけませんでした。ハウスルールで自分で使えるキッチン用品が電子レンジだけでしたが、自分の部屋に個人用の冷蔵庫があったので、コストコでパンをまとめ買いしたり、学校の前の日にスーパーで総菜を買ったりしたものをお昼に食べていました。とても良いホストファミリーに出会えて本当に良かったです。他にシェアハウスなどをしている友達の話を聞くと、自炊をしなければいけなかったりなど大変という話をきいたのでホームステイで良かったと思いました。

4. 携帯、キャッシュ、バスについて

携帯電話は日本で契約できるイエローモバイルのサクツとシムのアメリカシムを事前に購入し、開通を到着日に合わせて依頼していたので空港に着いた瞬間から使えてとても便利でした。また、今回は円安だったので、使用料を日本円で払えたのもよかったです。友人の中には現地についてからシムを購入する人や日本のプランからアメリカ放題などでそのまま使っている人も多くいました。

ハワイはほとんどのお店でクレジットカードが使えます。たまに小さいお店などでは5ドル以下の支払いではキャッシュのみという場合もありますが基本は使えるので、私はあまり現金を使わずにほとんどをカードで支払いました。持っていくカードでおすすめるのは楽天カードです。ワイキキとアラモアナに一か所ずつカードを持っている人のラウンジがあり、日本語で案内してもらえたり、飲み物をもらえたり、日本人しかいない場所で休憩できるので一枚楽天カードを持っていくのはおすすめです。

バスに乗る時には現金もしくはホロカードという日本の「Suica」のようなもので払うかの二択です。セメスターが始まる前に学校に行く日があり、その日に授業料の支払いが済めば、ホロカード付きの学生証を受け取ることができます。このホロカードはセメスターの期間内は使い放題となっていて、学費に費用も含まれています。

そのため、ハワイに到着してから学生証を受け取るまでの間はホロカードがもらえないのですがスーパーなどでホロカードを買うことができるのでカードだけ購入し使うたびにチャージをするようにすれば、無駄にせずにごすことができます。私は日本で生活しているときにあまりバスに乗ったことはなかったのですが、ハワイではバスが学生の主な交通手段となっています。最初は乗り方などもわからなかったのですが、ネットで検索したりホストファミリーに教えてもらったりして乗れるようになりました。日本と違って、運転手さんが物凄くラフで途中で急に休憩しに行ったり、バス停じゃないところで降りしてくれたり文化の違いが見えてとても面白かったです。

5. ハワイでの生活

ハワイでの生活で一番大変だと感じたのは物価高です。円安ということもあり、日本とは比べ物にならないほど物価が高く、いつもファストフード店などでお昼を買っていました。ハワイは自然が豊かな場所なので、ワイキキなどでのショッピングももちろん楽しかったですが、海に行ったり、トレッキングをするのも楽しかったです。みんなそれぞれ好きな音楽を流しながらすれ違う人を励ましあいながら登っていて雰囲気がとても良かったです。日本語で検索をすると観光客向けの情報がたくさん出てきますが、英語で検索をするとローカルなイベントがたくさん出てきて無料で参加できるものもたくさんあったので、どこか出かけるときは英語で調べるのがおすすめです。楽しい思い出もたくさんある一方で、ハワイは観光地ですが、やはりアメリカの一部なので、危険な場所もたくさんあることを初めて知り、実際に近くで立てこもり事件が起こったこともあり、常にある程度の緊張感をもって過ごさなければいけないとも感じました。

6. 最後に

私の今回の留学の一番の目的は英語の上達でした。もちろん4か月ほど住んでみて、前に比べたら、聞き取れるようになったり上達した面もありましたが、まだまだ伝わらなくてもどかしい思いをしたり、もっと英語が上手にならないと、と思うこともあるので、日本に帰ってからもしっかり勉強を続け、日本にいながらも英語を使う機会を自分から見つけ出してどんどん上達させていきたいです。

そして語学以外にも様々な学びがありました。ハワイの文化を知ることができたり、韓国人の友人を通して韓国の文化なども学ぶことができました。そして何より私の中で大きな発見だったのは、自分は日本のことをあまり知らないということです。日本で生まれ、日本で育った私ですが、日本のことを聞かれたときにうまく説明できなかったり、わからなかったりすることがとても恥ずかしかったです。韓国人の友人に何度も日本の良さを教えられました。もっと日本のことも自分から興味を持っていかなければいけないと改めて感じました。

さらに、今回の留学では様々な出会いがありました。クラスメイトは日本人と韓国人のみでしたが、イベントなどでまた別の国の人と仲良くなれたり、日本人でもいろいろな地域出身の人と仲良くなって自分の世界がとても広くなりました。このつながりはこれからも大事にしていきたいです。そして私はこの留学を通して日本の良さを外国の方に伝えていくことをしていきたいと考えようになりました。自分の新しい夢も見つけることができ今回の留学にはとても感謝しています。今回の留学で学んでこと、感じたことを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

もし、留学に行くかどうか迷っている人がいたら、絶対に行くことをお勧めします。

